

平成 30 年度第 1 回瑞浪人権施策推進ネットワーク会議要旨

日時:平成 30 年 10 月 11 日(木) 14 時 00 分～15 時 40 分

会場:瑞浪市役所 西分庁舎1階会議室

出席者(敬称略): 藤田敬一、山田照代、津毛信代、日比野宏彦、安藤希玖子、溝口博敏、水野富治、齋藤由美、加藤佐紀、伊藤恭司、安藤友美、岩田玲

欠席者(敬称略): 三浦晶子、伊佐治康利、山内浩康、小木曾ひろみ

〈事務局〉 まちづくり推進部長 景山博之、生活安全課長 三浦正二郎
生活安全課人権啓発係 鈴木友恵、山崎道美

議題: (1)平成 29 年度人権啓発活動実施報告について
(2)平成 30 年度人権啓発活動事業計画について
(3)その他

1. まちづくり推進部長あいさつ

2. 自己紹介

- ・会議参加者による自己紹介
- ・事務局による自己紹介

3. 座長あいさつ

4. 議事

議題 1 平成 29 年度人権啓発活動実施報告について意見交換

(座長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明

(座長) 事務局の説明にご意見ご質問ありましたらお願いします。

私は常々、一線でやっておられる職員の方の情熱とそれを支えてくださる上司の方の持続する志がものすごく大事だと思います。一線で働いている職員が異動した途端にシュンとなることがあります。情熱を温かく見守りながら志を持続するような上司がいてこのような取り組みが続けられるのでしょうか。そういう点では、水野市長は忙しいのに、講演があった時最後まで帰らずにじっと聞いていて感動しました。市長という重要な役職の方が、こういう態度で示されるのは良いです。

意見が無いようですので、議題 2 に移ります。

議題 2 平成 30 年度人権啓発活動事業計画について意見交換

(座長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明

(参加者) 意見特になし

議題 3 その他の意見交換

(事務局) 資料に基づき説明

(座長) せっかくの機会ですので、皆さんの体験で感じられたこと、まちづくりに活かされていくようなことも含めて順番に発表をお願いします。

(参加者) 人権擁護委員といっても私も初心者です。2 年目位の方が対象の研修がありました。岩田さんも講師として参加して下さったのですが、実践に基づいて色々やることがあって勉強になったというか、ますます分からなくなってしまうことが多いです。人の身になって考える思い遣りというか、寄り添うということがなかなかできなくて、自分の意見を言いたくなくなってしまう時がありますが、それはやはり抑えて、寄り添ってじっくりと聞くということが大切なことということに改めて思いました。

私の外に7名人権擁護委員の方がいますが、本当にこの方々のおかげで私も随分助けて頂いていますし、見習わなければいけないと思う方もいます。そういうことで、すごく勉強になると思いました。まだまだこれからですがよろしくお願ひします。

(参加者) 個人的なことですが、本人が公表されているのでこの場で話してもよいと思いますが、市内で男の方が女性として生きると思った方がいて、一昨日その方を見かけました。男の人と分かるのですが、そのきれいな姿を見ていかにこの人が女の人になりたかったのだろうと思いました。ここまでの苦勞、葛藤もあったのでしょうし、それを皆さんに公表されたのです。その勇氣も素晴らしいと思ひました。この瑞浪市にはそう言えた人もいるし言えない人もたくさんいると思うのです。私は学童に務めていますので、小さい子で、もしかしたらと思うことがあります。子どもだから隠さないのです。小さい子は特にです。中学生や大きくなると、隠して悩んでいる子もいると思うのです。私個人としては、もしできるのなら気持ちの苦勞や勇氣について話して下さったらすごく助かる子もあるし、そういう人を好奇の目で見ないで、それも一つの生き方だと皆が肯定できるようになるのではないのでしょうか。

(参加者) 私は退職してから保護司になって4年目になります。同じ位になった人が集まる研修会に参加したのですが、その中には本当に大変な人の対応をしていらっしゃる方もいて、私は保護司は楽しいと思っていたのですが、つらい思いをしていらっしゃる方もいるのだと思ひました。ただ、瑞浪市の場合はわりと数が少ないです。私は二人みましたが次はいないです。これは良い事だと思ひます。犯罪そのものは減ってきているそうです。ただし、薬物関係だけは増えているということと、再犯率も薬物は大変多いということになっております。本当に薬物中毒というものは、薬だから犯罪になるのですが、アルコール中毒とか摂食障害とかすべて含めた依存症という病気だということを理解してあげないといけないということと、犯罪に手を染めてしまった人が、やらないようにするためにはどうするのかということ、皆が理解しないといけないし、本人も自分がこういう病気なんだということを理解して、病院に通って治療するということをしていかないといけないと感じながら過ごしております。今私が担当しているのは、刑務所に入って何年か経つと出てみえて、大抵瑞浪に戻っていらっしゃるという方のご家族です。仮出所した時のための準備を話し合っていますが、奥さんですが非常に悩んでみえて、何とか出てきたご主人を支えていきたいということ、なんとか力になれないかと思ひながら年に2回お伺ひして話をすることを進めている状況です。奥さんと話しながらなんとか更生できるように私も力を尽くしていきたいと思ひています。こういう仕事をしていると、「大変ではないですか」とか「犯罪者とお話することはどうなんですか」とか聞かれるのですが、わりと今まで担当した方はまじめな方が多くて、一生懸命立ち直ろうと努力している方がかなりの方で大変ありがたかったです。なかなかそうでない方もいらっしゃるという話を聞きながら、難しい事例の時には果たして自分が出るか、もっとそういうことについて勉強していかないといけないと思ひながら過ごしております。

(参加者) 更生保護女性の会としましては子育て支援とか各地区で登校時にあいさつ運動とかをして子どもの見守り活動をしています。先日可児市で更生保護女性の会の集いがありまして、その時薬物の講演を聴いてきました。その中では、大麻を吸う人が多いということでした。気軽に吸ってしまうということで、大麻の次は覚醒剤でした。運び屋も罪となる等勉強しました。瑞浪市でも大麻や覚せい剤、依存症の人というのはありますでしょうか。

(参加者) 現在瑞浪市の中で保護観察を受けている人はいないのではないのでしょうか。

(参加者) 安全なまち瑞浪。子供の頃から皆さんが見守っていただいて、そういったことの無いようなまちにさせていただけたらと思ひます。

(参加者) 区長会の際には真剣にこういった話をする機会がなくて、区長会というと都市計画とか皆さんの苦情を行政に持って行ったりとか、色々提案したり、実際にやるということ、まちづくりや公民館の活動やネットワークが大事なところではないでしょうか。区長会も参加するが実際には活動のフォローをしていくという形で各地区活動していると思います。色々な問題点も地域の整備委員会とか物を直すことだけではなくハートの問題も一生懸命取り組んでいます。

(参加者) 民生児童委員は何をするのかと、今日も定例会が午前中にあり話をしました。皆さん、日常に不安を持っておりまして、自信がないと言っておられます。独居老人も多く高齢化もますます進んでいくわけですが、そういった中でお年寄りのお宅に伺って、とにかく話を聞いて対話の中で何が不安で何を必要としているのかをまず聞くことから始めようということで、市へ繋ぐという大事な目的があります。何を希望していらっしゃるかということを理解しないと、なかなか市へ繋いでも難しいと思うのです。この間の台風や水害の時でも自主避難という形で放送が流れたが、まず自分で行動して、どうしても難しければ連絡して下さいと。とにかく不安に思っていることを取り除いてあげることが第一ということ、今日話しておりました。

瑞浪はお年寄りや子どもにも住みやすいまちや、安心して子供たちを育て上げて頂けるというという評価に繋げるのは一朝ではできるものではなく、とにかく皆さん話だけ聞いてあげて安心感を持っていただくようなことから始めようということ、毎回になってしまいますが話している状況です。子どもたちへの声かけなど自分たちの出来ることから取り組んでいく結論に至りました。

(参加者) 家庭相談員の観点からの話となりますと、やはりDVで他県からみえたり瑞浪から他県へ移られたりという手続きですとか、DVの中には今は女性が多いのですが、最近では男性側がDVで訴えるのも多いです。基本私たちは、DVで訴えてきた方の傾聴です。本当に寄り添って聞いてその方を支援するという事で色々考えて動いています。

人権的なことからいうと、瑞浪ですと本当に派遣の方が多くて、他県から来て他県へお家をそのままにして行ってしまうというような方が多かったり、離婚問題、虐待など色々あるのですが、生活苦とかその中でわたしが毎年思うのは、それによって子供が振り回されるということです。親のそういったことで否応なく転校したり、連れていかれたり訳の分からない環境の中で不安定になったりとか、私たちは家庭相談員なので、常に子供の安全、命を守るという観点だけはぶれないようにして、離婚もすごく相談にみえますが、ご夫婦の事はご夫婦で決めて下さいと。とにかく私たちは子供さんの安全を守るためにはどうしたらよいかというところに重点を置いています。それは常に、相談員はもう一人いるのですが、2人で確認し合っていないと相談に流されてしまうので、常に私たちは子供を守る為子どもの観点から支援していくことを、相談者として受けようということを確認しながらやっています。が、子どもの人権ってどこまで守られているのだろうかということを常に感じながら動いています。

(参加者) 私は入居してみえるお年寄りの方のお世話ということを中心に、地域になかなか出向くということはないのですが、先日キャラバンメイトという講習に行き、これからは認知症の方が増えていくのでそういった方が地域で安心して暮らせるように、認知症を理解してもらって、認知症の方の支援を皆さんに広めて地域で安心して暮らせるように活動していこうと思っています。

(参加者) ここでやられるのは特に個々の人権を守るというような施策だとかほとんどだと思うのですが、私たち学校というと、正しい人権感覚を持つ子を育てるというか、そういう視点が一番大きいかと思います。対応もないことはないですが、外部にお願いしたり一緒に協力し

て頂いたり対応していくこともありますが、人権感覚を持つ子を育てるという点でいうと、岐阜県の人権教育協議会で行っているひびき合いの日というのが全県的にあるのですが、稲津小学校でいうと継続的にやっております、昨年度は人権文化あふれる学校賞という賞を頂きました。そういった取り組みをしていますが、だからといって一人一人が正しい人権意識をもっているかというそれは言い切れるものではなくて、個人の中に潜んでいるのも色々あるので、行動を続けていきたいと思っています。そのスタートは小学校かと思っていましたが、そうではなく、やはりそれ以前の家庭から生まれ、小学校に上がってくる間に人権感覚というのは家庭によってずいぶん違うのだということです。これを特に実感するのは、子ども同士のトラブルがあった時に、なかなか説明をして子どものためにどうしていくことが良いのかということ、私たちは一緒に進めていきたいのですが、壁を作られてしまうというか、親としては一生懸命子供を守ろうという意識でしようけれど、人との関わりの中でより社会の中でどうあるべきかということに及ばない親さんもあって、親さんとの大きな壁になっているというのを思うことがよくあります。他に過去バス事故に遭った日を命の日の取組ということで、1年生から3年生までは「いのち伝え隊」ということで、中津の妊婦さんを受診する組織がありまして、命の誕生ということについて講話をしていただきました。4年生から6年生までは、人との関わりということで、ネットだとかSNSで人を傷つけてしまうとか、そのことによって自分が傷つくということについての講演をKDDIにさせていただきました。昔は電話会社をお願いすると半分宣伝みたいな感じで携帯ありきのところがあったのですが、今は全然変わっていて、お話は企業責任ということもあって、会社の利益云々という事ではなく、KDDIさんですと携帯端末やネットで自社が扱っているものが社会に対して悪影響を及ぼしてはいけないということで、企業色を一切出さずやっただけというので、大人たちも驚くような話もあって、気軽に人の写真を撮ったり中傷的な記事を書くのは本当にいけないということを勉強させていただきました。そういった取り組みもしています。いろいろ含めて最後は家庭に頼らないといけないところがどうしてもあるので、そこの連携をどうしていくのが頭を悩ませているところ

(参加者) 弁護士の使命としては人権擁護というところで、実際にはこの様な場に出させていただく以外は個々の事案の対応ですので、そうすると権利と権利のぶつかりかいで私たちはその中で片一方の方について対応していくことが普通の業務です。そこでよく思うのが人間は一人では生きていけないということを強く感じていて、例えば離婚とか遺産相続とか身近な問題でも本当に一人という方もいらっしゃいます。そうすると主張も制限化していってしまうというところがあります。が、もし誰か支えになる方がいらっしゃるとそうではないのですが、やはり一人だと身構えてしまうということで主張が制限化していってしまう。最終的には裁判で決めるということになるのですが、もうその手前でもう一寸そこまで遣り合わないで出来ないかと感じることもよくあります。

もう一つは、アメリカでMe Too運動が盛んになってきていると思うのですが、わたしが一番驚いたことは、アメリカという国でさえもそういうことが言えなかったのだという気がしています。女性差別があると言っては語弊があるかもしれませんが、やはり人間というのはどこかでやはり人を差別しているところがあると思うのです。それは年齢であったり性別であったり職業であったり人種であったりというところでそれはなかなか無くならない。それが一番難しいのは自分がそういう差別意識があるというのは多分あまり考えないものですから、潜在的にはあっても自分として無意識にそういう行動してしまうというところが、一番難しいところだと思っています。そういうことを言うことが差別であるとか考えること自体がまずは第

一歩だと思い、なかなか無くならないものですから住みやすい社会にしていくにはどうしたらいいのかなと日々考えているところです。

(参加者) 全国の法務局や各協議会の方と人権の啓発活動という形で、SOSミニレターという活動があります。これは全小学校全中学校の生徒さんにチラシを毎年送っております。各校で生徒さんに配って頂くのですが、片方の面が封筒になっておりまして 岐阜県の人権本部の方に届くようになっていきます。もう片一方の方が便箋部になっておりまして、困ったこと悩みがありましたら書いて送るようになっております。学校の協力のもと送っていただいて、これについて人権擁護委員の皆さんが返事を書いて、中に問題事がありますと各校とか教育委員会とかとまた一緒になって対応していくという活動をしております。うれしいことに瑞浪の方はそういった混み合ったものは無いです。毎年同じ事をするのではなく、今年は夏休み明けに不登校になるお子さんとか自殺をするようなお子さんがみえるので、夏休み前に配ろうということで、今年は7月くらいに配らせて頂きました。その中で管轄が多治見・土岐・瑞浪の3つの市になりますが、その中では自殺希望までも考えているいじめ、部活の中でのいじめがあった中学校や教育委員会の方でも把握して動いておりますということでした。

不登校の子がおりまして、今不登校になる理由がいじめとか体罰ではなくて学校も動きづらいということで、どうしても家庭環境の方で、親御さんが離婚して子供が5人いて自分が上から2番目の中学校3年生で受験もあるのに、一番下の子が5歳なので毎日保育園とか幼稚園とかに送っていかなくてはならない。お母さんはどうしても新築したばかりで離婚して借金があるということで朝から晩までフル回転で働いていらっしゃるところで、我々学校ではどう関わっていくのか、どう相談にのっていくのかということ、瑞浪市ですと生活安全とか福祉とかそういった課も入ってこないといけなくて、また、お母さんが例えば相談にのらないと、行政というのはどうしても言ってもらわないと動けないところもあつたりするので、なかなかそういったところで難しいなといった話もあります。多治見の小学校で小バエが出て困っているということに関してもちろんと真摯に書いて送らなきゃいけないということもあります。多治見の環境課の方に聞いたらチラシを作っていますということでチラシをもらって、そのチラシを入れて返事をするというような形で、間口は広げておいてその中で少ないながら問題に対応している。また時代性も出てきていまして、中学校3年生の子から女の子ですが、「男の子になりたいということが言えません。どう親に相談したら分かってくれますか」と言われても困ったなあと、我々もこのLGBTの問題で、専門家がいるのかということとまだそこまでは育っておりませんので、どこか相談できる先はあるのか、たとえば一般的な人の場合偏った相談になってしまわないとか、できれば公的な機関で収めたいとか、この男になりたいという内容がさらっと書いてあれば、男になりたい度合いが例えば生理が始まったというのがあるから女の子の方がちょっと損しているなという意味合いで言っているのか、本当に男の人になりたいのかこの文面から考えるというのはなかなか面と向かって会っているわけではないので活字上のところの相談で答えるのは難しいなと思います。あと、学校でいじめにあっていますと、この場合も学校で〇年生の子のことで相談がありますと行きますと、誰だれさんの事ですかと先生がどんなことを書いていますかと、実はそれ逆なんですよということ、先に何かをしたから返ってきたということもありまして、すべてを鵜のみにしたまま動けないということもありまして悩んでいるところあります。

(座長) 私は人権ということを考えれば考えるほど わたしが中学生のころのバレーボールは9人制でした。相手チームからボールが戻ってくると、みんなが譲ってボールが地面に落ちてしまうということがありました。譲り合っているのは決して美学とは限らなくて、みんなで色々

やっているうちにボールが地面に落ちてしまっは元も子もなくなってしまいます。多少ぶつかってもレシーブするくらいが良いのではないかと時々思うのです。この会議のネットワークといてるところに意味があつて、それぞれのセクション、それぞれの分野で・・・

昔瑞浪市で餓死した人がいて、その人は孤独死だったらしく、畑や田んぼをやることで近所との繋がりを持っていればよかつたのですが、誰かが気付いたら共有できる情報として、もちろん行政も当然ですが、その辺が最近の日本社会ではちょっと劣化してきているのではないかと、それと同時に自治会に入らない人も例えば岐阜市でも多いのです。「関係ありません」や、「何も自治会に入る義務はありません」と言つて入らない人が増えてきているのは事実です。東日本大震災で人の絆、結と言われてきましたが、それを結びなおすような、このネットワークがそれに代わるかどうかは別ですが、希薄になってきている地域共同社会の中で何とかつながりを結びなおせるようなものがないかと思うのです。

瑞浪市も広いので、地域の中で共同性のそれぞれ濃淡があると思いますが、昔と比べたらどうですか。

(参加者) やはり特異性もありますし、まちとかと比べて田舎の方が絆が強いという割には、田舎生活に憧れ田舎生活を満喫しようとするのですが、田舎のコミュニティーが煩わしいということもあるとは思わなかつたです。

(座長) 私は京都から岐阜市へ移り住んで48年になりますが、移り住んでものすごく良かつたと思つています。地域性が京都と違つてやはり合うのです。岐阜県には5圏域ありそれぞれ違ひます。それぞれの彩も持ちながら生きています。ただし、その絆には排他性もあります。それを感じたのは東日本大震災です。あの日に皆さんが助け合つたんです。それはやはり絆みたいなものが生きていますね。こういった時に発揮されるのですね。

私が感動した短歌を紹介します。

「ことばなど さしてだいじでないらしい 抱きしめあう力があれば」気仙沼高校の女子高生が作った震災短歌です。やはり言葉は大事だけれどもあの時雪の中でお互いが生きていたということを確認するためハグしあうという短歌をTVで放映されたものをつきに見てメモしました。やはりそういった絆みたいなものを大事にするような地域性をもっと意識化して支え合うということですか。

岐阜市で用水路に小学生の子供が落ちて友達が助けたところを見て、私はすぐに岐阜市の人権啓発推進課へ電話を入れたのですが、町会長さんが別ルートで岐阜市役所に用水路に子供が転落してこのままでは危ないので柵をすぐ設置してくれということをして、すぐに柵を設けてもらったことがありました。こういった連携プレーで命を救うと、高齢者の方のそういった孤独死の無い様にお互いに連携がとれるように、個人情報という難しい問題もあるし、ほつてと言う人もいますから一概に言えませんが、必ずどこかで見守りのネットワークで見付けて、誰にも気付かれないという悲しい事の無いようになってほしいという私の願いです

(参加者) 以前私たちが関わつた相談者で、色々あつて市外へ転出したのですが、そこから飛び出してその先は育つた場所に来ていたのですが、私たちは警察などから情報提供を受けて知つてはいるのですが、その地区の民生委員の方やお菓子屋の方が見かけたという情報を下さるのです。そういう細かい情報というか、見守つていただけることが大事だということ、そういった見守りがあるということ、瑞浪に来たのかなと思うのですが、結局は保護やらなんやらで帰つて行くのです。やはり、いかにネットワークといふか見守る人がたくさんいるかといふか、だれでも支えられたいですし、虐待に遭う子も連鎖が多くて親さんも満たされない生活をして育つています。その親さんも養護施設とかで育つてそこを出て知り合つていくというケー

スが多いのですが。そこで支えになられる方というのは、施設長さんというのが多くて、最近
は施設長さんに連絡して情報を得るとか、どこと繋がりがいいのか私たちも探って、どこでも
いいので繋がっているところで私たちも繋がるということで細かい糸を探すではないですが、
そういう意味でも顔を付け合せてケース会議を行ったり、細かい情報を聴かせて頂けるので、
本当にそういったことを怠らないように、取り返しのつかない手ばかりをしてはならないとい
うことを肝に銘じてまた伝えたいと思います。ささやかな情報でもそれを伝わって広げていく
というか、それが大事だと思います

(座長) 自分の講演の時に、人権について考えるということ。「人間について考える」と言うの
です。これは間違いではなく人権を考えることは、人間を考えることです。私の夢について子
どもに質問された時の答で、私の夢と希望は「差別のない世の中を作ること」です。しか
し、それはできない。なぜなら人は偏見を持って差別をしてしまうのだから。しかし、それを
少しでも減らそうとする人々の輪の中にいたいということです。

他に意見はございませんか。

それでは事務局にお返しします。

(事務局) スムーズな議事進行と皆様からのそれぞれの立場からのご意見をいただきありが
とうございました。行政の方に困りごとですとかご不満な点、ご希望ご相談などあれば後
日でも結構ですでお話していただければと思いますのでよろしくお願ひいたします

次回第2回の会議の開催についてですが、資料No.3にありますように、期日は2月から3
月の間で、開催日時等については藤田座長と調整させていただき、案内を差上げる形で
すすめさせていただいてよろしいでしょうか。事前に都合の悪い曜日や時間帯があれば事
務局に言っていただければ調整させていただきますのでよろしくお願ひいたします。これ
をもちまして、「平成30年度第1回瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議」を閉会します。

閉会